

COMING TOGETHER



矯正施設と自治体等が連携した取組事例集

法務省矯正局

〒100-8977 東京都千代田区霞が関1-1-1

☎03-3580-4111(代表)



かつて黄金の国ジバングと称された日本。現代では日本の未来を予見させる知財の景色へと変化している。日本全国に脈々と連なるその知財を誇りに、やさしさの輪を広げる矯正施設と自治体等との取組。そのすばらしい景色に願いを込めてデザインしました。

COMING TOGETHER

矯正施設と自治体等が連携した取組事例集

2020年 12月発行

- 企画 奥村 奈央子
- デザイン 中川 梨恵
- イラスト協力 埼玉福興株式会社



誰もが安全に安心して暮らせる社会へ

矯正施設に収容された人達はやがて地域社会に戻り、私たちの隣人となります。犯罪をした者等が社会の一員として受け入れられる環境づくりには、地域社会の力が必要であり、特に「再犯防止推進法」が成立・施行された平成28年12月以降、再犯防止における、私たち地方公共団体の役割はますます大きくなっております。このような中、令和元年6月には矯正施設が所在する90の地方公共団体の首長（令和2年4月時点では98の首長）を構成員とする「矯正施設所在自治体会議」が設立され、私が会長に就任させていただくことになりました。本会議では、地域の方々と一丸となった再犯防止施策や、矯正施設が有する人的・物的資源を地域の強みとして活用した地方創生策等の推進を目的として、矯正施設と地域との連携事例の共有や意見交換などの活動を行ってまいりました。今後も本会議の活動を通じ、再犯防止施策等が推進されるよう、会員自治体はもとより、関係機関、民間団体等と協働・連携しながら、効果的な取組を進めてまいります。本事例集が、再犯防止、更生支援に携わる皆様の一助となり、誰もが安全に安心して暮らせる社会づくりがより発展しますことを祈念いたします。

府中市長
高野 律雄

「塀」の外から中へ、中から外へ

かつて、「刑務所の『塀』が余りに高く、その外から中へも、中から外へも、情報が行き来しなかった」と言われた時代がありました。今は、民間協力者や専門家、関係機関の多くの方々刑務所、少年院、少年鑑別所などの矯正施設に入ってきていただき、様々な取組が展開され、根付き、その成果が出てきています。平成28年12月に成立・施行された「再犯防止推進法」においても、国及び地方公共団体は、民間の団体その他の関係者との緊密な連携協力の確保に努めることとされ、地域との連携を更に進めていく時代となりました。各地において、矯正施設が持つ人的・物的な資源を活用して再犯防止対策のみならず、地方創生策等の地域の課題解決にまで貢献できる取組が始まっています。本事例集は、こういった各地域・各施設での取組を知っていただくために作成したものです。ここで取り上げた取組はごく一部ではありますが、本事例集が「種」となり、また違う場所で新たな「芽」が出て、各地域で根付いていくようなきっかけになれば、幸いです。

矯正局長
大橋 哲



「知ってもらうことがはじまり」

多くの方々に、矯正施設のことを「知ってもらう」「理解していただく」ことを目的として、これまで矯正施設と自治体等が連携して行ってきた取組を1つの事例集としてまとめました。わかりやすく、親しみやすい事例集を配布することで矯正施設を身近に感じてもらえたら幸いです。

矯正局は、矯正施設（刑務所、少年刑務所、拘留所、少年院、少年鑑別所及び婦人補導院）の保安警備、分類保護、作業、教育、鑑別、医療、衛生など被収容者に対する処遇が適正に行われるように指導、監督を行っています。この3つのCが重なった矯正のロゴは、黄Cが「CHANGE（改革・変革）」を、赤Cが「CHALLENGE（改革への挑戦と情熱）」を、青Cが「COOPERATE（国民との協働）」を、3つのCを貫く緑のSは、社会（SOCIETY）に貢献し、社会に支えられる存在になるという決意を表しています。



地域社会とともに
開かれた矯正へ



矯正施設と自治体等が連携した 取組事例集

府中市長 誰もが安全に安心して暮らせる社会へ……………2P
 矯正局長「塀」の外から中へ、中から外へ……………2P
 知ってもらおうことがはじまり……………3P
 目次……………4P
 コンセプトメッセージ……………5P
 矯正施設で製作した製品などを活用した事例……………6P～12P

- (1) コラボレーション製品関係
- 阿寒アイヌコンサルン×網走刑務所
 - 内閣官房×東京オリンピック・パラリンピック組織委員会×東京都×広島県×広島市×広島刑務所
 - ㈱広島東洋カープ×広島県警察×広島刑務所
 - 東温市×松山刑務所
- (2) ふるさと納税進呈品
- 青森市×青森刑務所
 - 加古川市×加古川刑務所
 - 豊後大野市・大分市×大分刑務所
- (3) その他
- 鎌倉市×横浜刑務所
 - さくら市×喜連川社会復帰促進センター
 - えちぜん鉄道×福井刑務所
 - Yahoo! JAPAN×美祢社会復帰促進センター
 - 厚生労働省×法務省矯正局(全国42庁の刑事施設)
 - 島根県×浜田市×島根あさひ社会復帰促進センター

社会貢献としての取組……………13P～16P

- 福祉施設×愛光女子学園
- 福祉施設×豊ヶ岡学園
- 小中学校×青森刑務所
- 盛岡市×盛岡少年刑務所
- 和歌山市社会福祉協議会×和歌山刑務所
- 福祉施設×熊本刑務所
- 千歳市社会福祉協議会×北海少年院
- 阪南市社会福祉協議会×泉南学寮

矯正施設の人的・物的資源(リソース)を活用した取組……………17P～23P

- (1) 防災訓練などの取組
- 防災協定自治体×法務省矯正局
 - 多機関連携・地域住民×府中刑務所・茨城農芸学院
 - 多機関連携・地域住民×京都刑務所
- (2) 矯正施設の人的資源を活用した取組
- 千歳市教育委員会など×北海少年院・紫明女子学院
 - 県立高校×法務少年支援センター福島(福島少年鑑別所)
 - 都立高校×東京西法務少年支援センター
 - 多職種・多機関×金沢法務少年支援センター(金沢少年鑑別所)
 - 視覚支援学校×大阪法務少年支援センター(大阪少年鑑別所)
 - 小学校×広島刑務所
 - 高知県警察×高知市教育委員会×法務少年支援センターこうち(高知少年鑑別所)
 - 九州大学法科大学院×福岡少年院
- (3) その他の取組
- 月形町×株式会社月形町振興公社×製薬会社×月形刑務所
 - 奈良市 こども園×奈良少年院
 - 浜田市×島根あさひ社会復帰促進センター
 - 沖縄県×沖縄女子学園

COMING TOGETHER

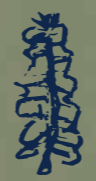


ほんの一步近づいたら
 知ることができる新たな景色。
 「知らない」から始まるこの旅だから
 知ることができると、わくわくする。
 きっとゴールはない。

ひとつ、ひとつ、
 ともに考え、ともに働き、
 生きていく。

Coming together

優しさの連鎖を願って。
 この道の先に何かが見えてくる。





矯正施設で製作した製品などを
活用した事例

網走刑務所

アイヌ文化を取り入れたアイヌ文様製品シリーズ
(阿寒アイヌコンサルン×網走刑務所)

「アイヌ文様を取り入れた木工と洋裁製品を開発・製作」



網走は、アイヌ語で入口の地を意味するアパシリや、幣場^{ぬさば}(神へ祈る場所)のある島を意味するチパシリに由来し、そのアイヌ語に漢字をあてたものと言われています。当所では、地域社会との共生、刑務作業の理解、アイヌ文化の発信を目指して、アイヌ文様を取り入れた木工及び洋裁製品の開発・製作を行っています。製品に施されているアイヌ文様は、角度を変えて見るとハート型に見えるようにデザインしており、受刑者が心を込めて製品づくりを行っていることと、きれいな心を持ってほしいという願いを込めています。



◀アイヌ文様と並べたときに、バランスがとれるように丸みをもたせた網走の漢字。

広島刑務所

平和と文化の地域活性プロジェクト

(内閣官房×東京オリンピック・パラリンピック組織委員会×東京都×広島県×広島市×広島刑務所)

「from HIROSHIMA (～ヒロシマから平和のメッセージ～)」

折鶴再生紙を利用した平和の折鶴・缶バッジの製作を通して『国際平和文化都市ヒロシマ』として平和と文化の調和を発信。職員や受刑者が原爆被害を受けた過去を振り返り、平和への願いを込めています。資材となる再生紙は、平和記念公園内の『原爆の子の像』に対し国内や海外から捧げられた折り鶴(年間約1千万羽、重さ約10トン)。当所では、この思いのこもった折り鶴1つ1つを身近なものに昇華させるため、折鶴再生紙として新たな命を吹き込みました。この取組は、平和と文化の地域活性プロジェクト from HIROSHIMAの一端を担っています。



広島平和記念資料館



受刑者が「地域の安全・安心」を願ったプロジェクト
(株)広島東洋カープ×広島県警察×広島刑務所

「地域の皆さまと、製品を通じてひとつになれた瞬間」

広島東洋カープ球団・広島県警とともに製作したキラキラ反射ポーチと通帳ポーチは、広島グッドデザイン賞奨励賞を受賞し、皆さまに好評をいただいています。球団のマスコットキャラクターが刑務官の制服を着た刑務官カープ坊や(男の子、女の子)の缶バッジの製作に加え、MAZDA Zoom-Zoomスタジアム広島では『マツダスタジアム刑務所作業製品展示即売会』を毎年開催。これらのグッズは試合前に売り切れるほどの人気で、地域の皆さまとの交流を実感しています。

■ 作ったねらい

球団や警察のご協力で安全・安心への地域の皆さまの関心を高めること、女性活躍の推進の2点に重きを置いてデザインしました。皆さまに身近に使ってもらえる製品を通じ、刑務所のイメージアップと周知に貢献しています。



松山刑務所

東温市イメージキャラクターを活用したコラボレーション製品
(東温市×松山刑務所)

「東温市のイメージキャラクター『いのとん』を使ったエプロンを製作」



■ 製作の工夫

生地裁断から縫製などの作業をすべて受刑者が実施し、いのとんの図案やヒモの色の組み合わせも工夫をしています。生地も汎用性(炊事、園芸、運搬など)があるようストレッチデニムやデニム生地を採用し、サイズも2種類とユーザビリティにこだわりました。おかげさまで販売をした四国矯正展では、準備していた数量を初日に完売したほどの人気ぶり。あまりのご要望の多さに、当日の予約を受けて後日当所でも販売し、現在も継続して販売しています。



■ いのとんの由来

松山刑務所のある東温市のキャラクターは、白い猪の妖精『いのとん』。名所『白猪の滝』の、伝説の白いのししの(いの)と、とうおんの(と)・(ん)で『いのとん』と名付けられました。

青森刑務所

青森市ふるさと納税進呈品
(青森市×青森刑務所)

「伝統工芸を守り、その粘り強い作業を社会復帰の一助に」

約26年前からこの地ならではの津軽塗製品を製作しています。伝統的工芸品だけあり、塗り・研ぎ・磨きの作業工程を繰り返すことにより粘り強さを習得でき、社会復帰時に生きてきます。

■ 津軽塗が刑務作業となったきっかけ

津軽塗は加工の難しさや経済的な理由から担い手が減少する中、刑務作業を通じて伝統工芸を伝承していければと始めました。刑務所の中においても社会とのつながりを感じることのできる、受刑者のやる気が特に高い作業の1つです。



らでん
津軽塗螺鈿タンブラー

(左)直径7cm 高さ14.7cm 容量約350ml
(右)直径7cm 高さ15.8cm 容量約400ml

※ふるさと納税進呈品は「津軽塗螺鈿タンブラー350ml 黒色」のみ。

加古川刑務所

加古川市ふるさと納税の返礼品
(加古川市×加古川刑務所)

「刑務所製作の返礼品広がるふるさと納税が社会復帰に」



木工製品や布地・合成皮革を使ったソファを生産しています。ふるさと納税額によって、1人掛け用から2人掛け用、3人掛け用まで用意されており、色もブラックの他、イエロー、オリーブ、ブラウンの計4色からカタログで選べます。また表面材に、とても軟らかいソフトレザーを使い、ウレタンも手を抜かずしっかりと詰めているため、ボリューム感のある仕上がりです。なかでも、1人掛け応接椅子L型は、特に人気の製品の1つです。座り心地も良いこのソファは、生産工程のすべてを刑務作業で完結させているため、高品質でていねいな仕上がりが自慢です。令和元年度に、ふるさと納税の返礼品に登録されたことで受刑者の生産意欲もますます高まり、社会に貢献している喜びを感じながら作業をしています。

大分刑務所

豊後大野市・大分市ふるさと納税の返礼品
(豊後大野市・大分市×大分刑務所)

「1本1本手作業で細部まで、ていねいな仕上がり」



全国の刑事施設の中で唯一ガラス製品を製作。このガラスペンが豊後大野市と大分市のふるさと納税の返礼品にも採用されています。受刑者の技術力と創作力により、繊細で美しい製品に仕上げられ、1本1本手作業なため同じ柄が1つとされていないことから贈りものとして喜ばれています。ガラスペンの製作は、熟練した技術が必要のため長期受刑者の処遇に向いており、その過程で集中力や忍耐力が培われ、目の前の困難から逃げださず最後まで取り組む姿勢の習得につながります。社会復帰後、この技術を生かして工芸の道に進んだ人もいます。

横浜刑務所

受刑者が製作した下駄箱を鎌倉市内の学校に設置
(鎌倉市×横浜刑務所)

「寄り添ったものづくりで、地域の絆を深めていく」

鎌倉市と連携し鎌倉市内の小中学校で使用する下駄箱を製作しています。



■ 製品へのこだわり

生徒たちの使いやすさを意識した下駄箱の設計はもちろん、角でケガをしないために材木の角をていねいに丸めるなどの工夫を凝らしています。より高い品質の製品を届けるために、一生懸命気持ちを込めて製作しています。

■ 心温まるエピソード

完成した下駄箱を納める際、先生方から「すごくキレイで立派ですね。大切にさせていただきます。」と感謝の言葉をいただいています。その言葉通り、過去に納品した下駄箱はどれも泥や砂がきれいに取り払われるなど、子どもたちも大切に使ってくれています。作り手である受刑者に大事に使ってもらっていることを伝えると、彼らもそっと控えめながら笑顔になります。今後も大切に行っていきたい活動です。



福井刑務所

高齢受刑者が栽培した花を「えちぜん鉄道」福井駅舎（JR福井駅に併設）に展示
(えちぜん鉄道×福井刑務所)

「自分たちが育てた花で駅舎展示」



受刑者の中でも高齢で医療面での配慮を要する場合や、身体及び認知障害などを持つ受刑者を対象に、改善指導の一貫として体力と認知力の維持を図るための園芸活動を実施しています。多くの方に見てもらうことにより、受刑者の花栽培への意欲を高め、駅周辺の環境美化などにも貢献しています。2020年は、コロナ禍で尽力されている医療に従事する方へのメッセージとして、『感謝』『応援』の二文字を組み入れた己書(おのれしょ)文字をプランターに添えました。



喜連川社会復帰促進センター

受刑者が栽培した野菜をさくら市教育委員会に寄贈
(さくら市×喜連川社会復帰促進センター)

「栽培した農作物を給食の材料に」

センターの敷地内で栽培した玉ねぎ、じゃがいもなどの農作物(約2873kg)を、給食の材料に使っていただくため、さくら市教育委員会等に寄贈しています。そのほか、さくら市教育委員会主催の『ゆめ!さくら博』や、さくら市子ども連合会の『体験キャンプ』でも市民の方々にセンター産作物をご試食いただく機会があります。皆様からは「おいしいさつまいもですね。」「とってもおいしかった!」と温かい言葉をいただいています。

■ おいしいの秘訣

農業科職業訓練では、季節に応じて数多くの野菜等を育て農業の基本を学ぶことに加え、生産者に求められる味について、試食する取組も行っています。それにより品種や肥料の違い、作付け方法などによって、味や収穫量にどう影響するか学びます。



美祢社会復帰促進センター

地方自治体との連携による職業訓練(ネット販売実務科)
(Yahoo! JAPAN×美祢社会復帰促進センター)

「刑務所でECの職業訓練を実施、Yahoo! JAPANの協力で道の駅『おふく』のストアサイトを立ち上げ地域特産品を販売」

法務省と山口県美祢市、Yahoo! JAPAN、小学館集英社プロダクションは協働で、刑事施設『美祢社会復帰促進センター』の受刑者に対して、ECサイト道の駅『おふく』の立ち上げと運営の職業訓練を実施。専門知識やネットショップの運営を学ぶほか、ITリテラシーやコミュニケーションスキルも身につけることで、スムーズな社会復帰や職場適応、就労の継続をめざしています。



■ ショップの社会貢献と支援企業について

訓練の名称は『ネット販売実務科』。道の駅『おふく』のネットストアをYahoo! ショッピング内で開き、美祢市産の品などを販売。全国への出荷を通じて地方創生の一部も担っています。当センターで訓練業務を担当している小学館集英社プロダクションが、Yahoo! JAPANからコンテンツ提供を受けて実施し、CSRの一環として再犯防止と地方創生をも支えています。



法務省矯正局

全国42庁の刑事施設、医療用ガウン生産へ 新型コロナウイルス感染防止プロジェクト
(厚生労働省×法務省矯正局〈全国42庁の刑事施設〉)

「医療用ガウンよ、医療の最前線にいち早く届け！」

新型コロナウイルス感染症の急速な拡大でニーズがひっ迫した医療用ガウン(約136万着)を刑事施設42庁において『社会貢献作業』として製作し、各都道府県に納めました。

■ 職員と受刑者のおもい

医療従事者の方々がいち早く安心して使用できるように、各施設の作業専門官や担当職員などが受刑者を入念に指導しながら、受刑者それぞれが裁断から縫製まで心をこめて作業しました。従事している受刑者の多くは、受刑中で家族や社会に何もできないもどかしさを感じていた中、この取組を通じて社会に貢献でき、改善更生に役立つものになったのではないかと思います。



島根あさひ社会復帰促進センター

石州和紙・石州半紙の原料となる楮の栽培
(島根県×浜田市×島根あさひ社会復帰促進センター)

「こうぞ楮収穫、石州和紙原料に」

生産農家の減少でその安定供給が課題となっていた楮の確保に貢献するため、当センターが本格的に栽培を開始しました。

■ 楮栽培を開始した3つの理由

- 1) 石州和紙(伝統工芸品指定)・石州半紙(ユネスコ無形文化遺産指定)の原料である楮を安定して生産し、確保することが伝統的技術・文化継承に繋がると考えられます。
- 2) 職業訓練として『石州和紙製作科』を設け、和紙の製作も行っており、栽培事業が軌道にのれば、収穫した楮を和紙製作の原料に用いることが期待できます。
- 3) 森林の持続的管理や資源の確保という観点で、SDGs(持続可能な開発目標)の推進に寄与することができます。

この取組は、高齢・過疎化の問題を抱える地域で、地場産業の活性化や伝統技術の保存などの一助となるだけでなく、訓練生(受刑者)がやりがいを持って取り組むことができる作業であり、円滑な社会復帰や再犯防止にも有効であると考えられます。



SDGsは「Sustainable Development Goals」の略称。2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」で示された国際目標(Goals)。貧困・格差の撲滅をはじめ、持続可能な世界を実現するために、国際社会全体が取り組むべき目標です。

社会貢献としての取組



愛光女子学園(女子少年院)

交流イベントでの社会貢献プロジェクト
(福祉施設×愛光女子学園)

「特養ホームでのカフェ・介護職への興味と交流」



カフェの様子(写真は在院者ではありません)

近隣にある特別養護老人ホームで開催されている入所者、施設職員、地域住民らを対象とした交流イベントのカフェに、社会貢献活動の一環として在院者が参加。年に2、3回ほど、在院者をカフェに派遣し、食器洗いやお菓子の配膳のお手伝いを実施します。その中で、働いているスタッフの方の姿を見て、介護職への興味や関心を持った在院者もあり、参加者にとっては今後の対人関係や出院後の進路を考える契機にもなっています。参加するたびに、スタッフやボランティアの方、そしてご利用の方に「ありがとう。」「助かるよ。」と温かい言葉をいただいています。

豊ヶ岡学園

教えることで得る学び
(生活介護施設『メイツ』×豊ヶ岡学園)

「絞り染め制作指導を通じた地域貢献活動」

生活介護施設『メイツ』利用者の絞り染め制作に、教えることで協力しています。この取組では、少年たちが利用者への指導役となります。職業指導で作る手順を習った在院者が『メイツ』利用者に教えることで、彼らの新たな一面を発見します。

■ 私たちが工夫する点

- どうしたら相手にうまく伝わるか
- 安全作業には、どんな段取りが要るか
- 双方が有意義な時間を過ごすには

在院者はコミュニケーション能力の向上を図り、社会人としての言動を実践的に学びます。また、利用者は個性に応じて制作に励みます。互いに支え合うという経験を積み、他者を尊重しながら生きる大切さを学びます。



青森刑務所

修理を通じた社会貢献
(小中学校×青森刑務所)

「修理作業とその受渡しを通して、地域との関わりを深める」



近隣の小学校から木製備品などの修理について問い合わせがあったことをきっかけに修理作業を始めました。近隣の小中学校からの木製トンボ、人形(荒馬)、額縁、暗幕、机、木製テーブルなど多岐にわたる製品の修理を行っています。修理品のお渡しは、たくさんの方々が見守る中、受刑者から校長先生へ直接手渡しました。校長先生からは受刑者に対して感謝の言葉をいただくとともに、修理品の出来栄についてお褒めの言葉をいただきました。

和歌山刑務所

善意の資材でタオル帽の製作
(和歌山市社会福祉協議会×和歌山刑務所)

「刑務所から笑顔が届ける連携事業」

■ 帽子の特長

善意の資材でタオル帽の製作を行っています。さまざまな理由で帽子が必要な患者さまのために、ミシン縫いよりも肌触りや被り心地の良い帽子になるよう、すべての行程を手縫いで製作しています。

■ 原材料となるタオル

和歌山市民から寄付されたタオルを原材料に帽子を作っており、この連携事業は言わば市民の善意が集まったものです。病気やケガといったさまざまな理由で髪の毛が抜けてしまい、トラウマを抱えてしまう人たちはたくさんいます。多くの市民の善意と受刑者の熱意がタオル帽子にかわることで、帽子を被った人たちの気持ちの癒しにつながり、刑務所から笑顔が届けられるような事業になることを願っています。



盛岡少年刑務所

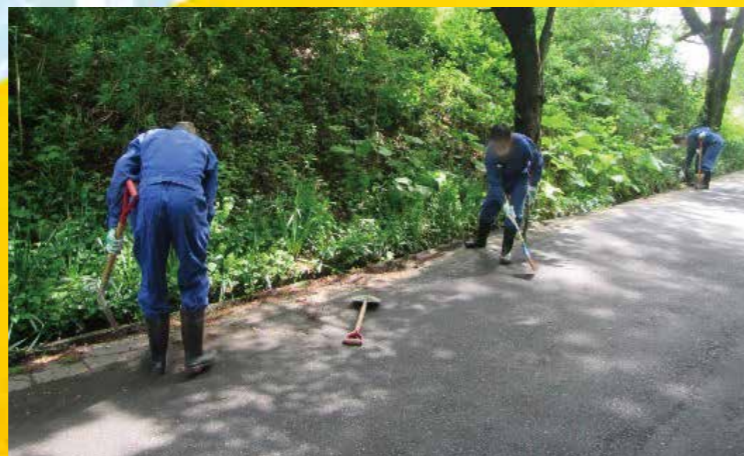
市道の清掃活動
(盛岡市×盛岡少年刑務所)

「市道の清掃で生まれた、ありがとうの輪」

普段みんなが使う市道の清掃は、受刑者が社会に貢献していることを実感できるとても有意義な作業です。顔の見えない他人への気づかいを学び、改善更生やスムーズな社会復帰に役立ち、モラルが向上することで再犯防止にもつながっています。

■ 地域の小学生とのエピソード

地域住民に対して受刑者が清掃作業をすることの事前説明があり、親から受刑者だと聞いていたため、少し不安げな小学生が通りかかりました。不安を和らげてあげようと、刑務官からその小学生に「みんなの道路をきれいにしているんだよ。」と声をかけたところ、一生懸命に清掃作業に取り組む受刑者らの様子を見て、安心した表情を浮かべながら「私たちの通学路をきれいにしてくれて、ありがとう。」と仰ってくれました。



熊本刑務所

福祉施設で使われる車いすの清掃作業
(福祉施設×熊本刑務所)

「車いす清掃を通してボランティア活動」

■ 車いすの清掃の難しさ

車輪の間についた汚れを取り除くのは根気のいる作業ですが、ていねいに行えば行った分、目に見えて違いが分かり、やりがいのある作業とも言えます。また、この作業を行う受刑者にとっては、車いす利用者のことを考え、少しの汚れも見逃さないという気持ちで集中して取り組むことで、相手の立場になって考えることの大切さを学び、美しくなった車いすを介して社会とつながることで自分が社会の一員であることを改めて実感する良い機会となっています。

■ 小さな清掃から大きなつながりへ

ボランティア活動は、受刑者の奉仕の精神を醸成、改善更生及び社会復帰の意欲の向上にもつながります。



北海少年院

点字や点訳での社会貢献プロジェクト
(千歳市社会福祉協議会×北海少年院)

「千歳市内の点字図書館へ寄贈」

千歳市社会福祉協議会から借り受けた書籍を、在院者が点字翻訳し点字図書館へ寄贈するこの取組は、ただの社会貢献活動ではありません。少年院生活で培った在院者によるやさしさの結晶です。点字や点訳にかかわった在院者は、矯正教育を経て、とりわけ他者の視点に立てる者になります。しかし、点字や点訳が必要な方の視点に立つことは容易ではありません。

■ 『ヤマアラシのジレンマ』

だれかを思い近付くと、逆にそのだれかを傷つけてしまう例えです。まさに当院に在院する者に当てはまる言葉と言えるでしょう。本当のやさしさが培われるのは自分と立場が違うものにやさしさを向ける時ではないでしょうか。



泉南学寮

在院者により結成された『ボランティア団体』が地域の課題解決
(阪南市社会福祉協議会×泉南学寮)

「泉南学寮グリーンサポーター」

阪南市社会福祉協議会と連携したボランティア活動をしています。活動にあたり(矯正施設と地域が連携した立ち直り×地方創生実現プロジェクト分科会「役立ちたい」検討プロジェクト)が設置されました。これまでも少年院においては社会貢献活動を実施していましたが、少年院としては全国で初めて社会福祉協議会にボランティア団体として認定・登録を受けたことにより、活動の範囲が拡大されました。活動を通して、在院者が主体的になることや、地域の困りごとを少しでも解決して連携を深めることで、地域貢献と彼ら自身の立ち直りにつながることを期待しています。

■ グリーンサポーター5つのコンセプト

- 1) 公的団体に属することで社会の一員である実感を持つ。
- 2) 地域の課題を共有し、在院者が中心となって解決に取り組む。
- 3) 在院期間を通して継続して取り組むことで出院後のボランティアにつなげる。
- 4) 自ら考え実践することで自分の居場所を感じ、存在意義を実感する。
- 5) 上記4つのコンセプトを実現することによって、在院者と社会との間に「絆」が生まれる。

漁協の依頼により西鳥取漁港で牡蠣の仕分け作業



矯正施設の人的・物的資源(リソース)を
活用した取組

法務省矯正局

「災害発生時を想定した地域支援」
(防災協定自治体×法務省矯正局)

「防災時における避難所開設」

矯正施設は防災拠点としてのリソースを備え、訓練にも取り組んでいます。

■ 具体的な防災リソースと、万ーに備えた訓練

- 一定量の非常食などを備蓄
- 武道場などの避難できる広さの施設
- 火災発生時の初期対応訓練
- 炊出しなどの総合的な防災訓練

災害時には市区町村長が指定する「指定緊急避難場所」や「指定避難所」として、あるいはこれを補う施設として地域の災害対策の力になっています。

平成28年の熊本地震では、熊本刑務所の武道場を開放して1日最大約250名の避難住民を受け入れて支援にあたりました。また、令和2年7月豪雨の支援でも呉拘留支所での避難住民の受け入れや、熊本県人吉市への職員派遣による瓦れきと汚泥の撤去、熊本県天草市へのマスク提供など、さまざまな支援を展開しました。これらの対応は、新聞報道にも大きく取り上げられ、矯正施設が



地域の防災拠点となることについて、一定の評価が得られたのではないかと考えております。日頃の地域の方々のご理解とご協力に、緊急時の貢献で恩返しできるよう訓練に励んでいます。

府中刑務所・茨城農芸学院

近隣住民とともに総合防災訓練を
(多機関連携・地域住民×府中刑務所・茨城農芸学院)

「専門性の高い防災訓練で地域住民の危機管理能力の向上」

住民参加型・多機関連携の防災訓練を実施しています。

府中刑務所

台風19号のような大規模災害発生時に、住民や関係機関との効果的な連携ができなかったことを訓練に生かしています。当時は府中市民約9万5千人に避難勧告が発令され、府中市からの要請に基づき臨時避難所を開設したものの、連携での課題が浮上りました。顔の見える関係を築き、各所の特性を知るため、府中市役所と府中警察署・消防署などが参加し相互連携の確認を行っています。

茨城農芸学院

少年院では日本初、住民参加型・多機関連携の防災訓練を実施。大規模地震発生の設定で、避難所の開設や被災者の受け入れなど多くの場面想定で、住民や多機関と連携しながら時系列での訓練を行いました。警察や消防関係者だけでなく地域住民の危機管理能力の向上に役に立つ専門性の高い訓練となりました。



京都刑務所

近隣住民とともに総合防災訓練の実施
(多機関連携・地域住民×京都刑務所)

「関係機関や地域住民と連携した防災訓練で社会貢献を」

実際に行われた支援を総合防災訓練として近隣住民に体験していただき、刑務所の地域に対する取組への理解につなげます。

■ 始まり

熊本地震が発生した2016年から、多機関で連携した総合防災訓練を実施しています。

■ 連携先

- 警察、消防、自衛隊等の防災関連機関
- 赤十字病院、日本赤十字社等の医療救護等支援機関
- 土木事務所や上下水道局等の公共インフラ維持保全機関
- 地域住民によって形成される自主防災会及び山科消防団

大震災に見舞われ、矯正行政においてはそのたびに新しい形での社会貢献をしてきました。東日本大震災では、物資の支援や職員の派遣、矯正施設を利用しての炊出し。そして熊本地震では、矯正施設の一部を避難所として地域住民に開放するという社会への支援が行われました。今後も継続的に実施していきたいと思っております。



北海少年院 紫明女子学院

千歳学出前講座で少年院のノウハウを還元
(千歳市教育委員会など×北海少年院・紫明女子学院)

市民と行政が協働で生涯学習のまちづくりを進める『千歳学 出前講座』では、市民と市民、市民と学校、市民と企業など、多彩なメンバーでネットワークを作ります。少年院は外から見えにくい施設のため、私たちが地域で共存するために、何ができ、何を発信できるのかと考え、千歳学出前講座に登録し顔を合わせての情報共有を始めました。この講座を機

に、少年院の正しい実情「在院者は、怖い存在でなく社会復帰に向けて苦手を克服しようと多くのことを学んでいる少年であること、そして法務教官は、その立ち直りを色々な面で支えている存在であること。」を伝え、多くの方々に理解いただく機会としていきたいと思っています。



法務少年支援センター 福島 (福島少年鑑別所)

地域援助・法教育講座『薬物乱用防止教室』
(県立高校×法務少年支援センター福島)

青少年の薬物乱用を防止する目的で、福島県内の高校で薬物乱用防止教室を実施しました。少年鑑別所法の施行後、地域に対する援助は新たな主要業務となり、少年鑑別所ができる地域援助とは何か？どこにどのようなニーズがあるのか？と手探りながらも取組を進めることで、改善を重ねています。

■ 法教育講座『薬物乱用防止教室』のテーマ

- 薬物とは何なのか？ ● 薬物依存とは？ ● 司法手続き
- 薬物に頼らないためにはどうすべきか？ …など。

本講座の受講を通じて薬物の恐ろしさを学び、身近に潜む薬物乱用の問題を理解することで、すべての人が薬物とは無縁の生活を送ることを願っています。



東京西法務少年 支援センター

都立のエンカレッジスクールと連携
(都立高校×東京西法務少年支援センター)

東京都昭島市にある当センターでは、都立のエンカレッジスクール(※)に職員の定期駐在をしています。エンカレッジスクールは、対応が困難な生徒でもできるだけ修学を維持し、学校の枠組みの中で納めていくという方針で運営され、当センターの専門性を生かした活動を展開しています。具体的な活動は、職員が月に1、2回程度エンカレッジスクールを訪ね、『生徒相談委員会』での個別面接や、先生方と



の協議などを通して、思春期の子どもたちの行動理解や支援に関する提案をしています。

※小学校、中学校に不登校などで通えなかったり、十分に力を発揮できなかったりした生徒に対して、やる気を育て、頑張りを励ます教育を行う都立全日制の高等学校。

金沢法務少年 支援センター (金沢少年鑑別所)

多職種・多機関との研究会(公開講座)の実施
(多職種・多機関×金沢法務少年支援センター)

■ 顔の見える関係性の構築に

地域援助業務を効果的にするには、依頼者と支援対象者のニーズと問題点を的確に把握することが重要です。実施にあたり、関係各機関の強みを生かし、協働しながら支援する必要があります。研究会ではソーシャルワークの専門家をお



招きし、地域援助につながるのある関係機関とともに、矯正施設と青少年の健全育成に携わる関係機関との効果的な連携のあり方や、問題行動のアセスメントやソーシャルワークを

学びました。様々な機関・職種の実務者が参加し、一緒に講義に耳を傾けたり、グループワークを通じた意見交換等を行うことで、相互の顔の見える関係性の構築に貢献できました。研究会後、参加機関から援助依頼を受けることもあり、機関連携の重要性を改めて感じています。

大阪法務少年 支援センター (大阪少年鑑別所)

薬物乱用防止研修
(視覚支援学校×大阪法務少年支援センター)

地域援助業務の一環として、医療・福祉・教育などの機関や学生を対象に、講演や研修活動に取り組んでいます。

■ 幅広い方々への講演・研修

視覚支援学校から依頼を受けた薬物乱用防止研修では、前もって学校に送った原稿を点字におこしていただき、

それを資料として受講者に配付するなど、視覚障がいを抱えた学生への効果的な研修方法を教員たちと話し合って実施しました。研修では、心理・教育を専門とするそれぞれの職員が協力し、薬物乱用のメカニズムや薬物に頼らない対処法を説明しました。質疑応答では聴講者から熱心な質問をいただく場面もあり、薬物乱用防止に関する知見の普及につながれたと思います。



広島刑務所

登下校時の見守り活動
(小学校×広島刑務所)

平成24年から近隣小学校の児童の登下校時に合わせて、刑務官による見守り活動をしています。これは、同年の逃走事故の際に実施した施設周辺警備がきっかけですが、収束後も「刑務官が施設の周辺警備をすることで、子どもたちが安心して通行できる。ぜひ継続してほしい」とのご要望から始めたものです。具体的には、外堀の外側にある巡経路を通学路として開放し、登下校時間帯に交通安全指導を行うことにしました。以来、小学校の登校日には毎



日2回、交通安全の黄色い旗を持った刑務官が地域の一員として、2名1組で巡経路に立ち、交通安全指導をしながら登下校の見守り活動を実施しています。

法務少年 支援センターこうち (高知少年鑑別所)

3庁間協定で生まれた相乗効果
(高知県警察×高知市教育委員会×
法務少年支援センターこうち)

高知県は過去『少年の非行率』が全国ワースト1位を記録し
予断を許さない状況でした。そのため県警察、市教育委員
会、法務少年支援センターこうちの3庁間で全国初の、少年
の立ち直り支援活動に関する協定を締結しました。青少年の
健全育成と、凶らずも非行をした少年らの更生を、互いの強



みを活かし支援し負
の連鎖を断ち切りた
い思いで、実現したも
のです。以来、各施設
の良さを活かした支
援ができ、施設間の
垣根が低くなること
で2つの相乗効果が
生まれ、早期対応も可能になりました。

- 1) 個別ケースでの連携
- 2) 互いがコーディネーターとなり最適な機関へ紹介

また、非行防止教室などの法教育での協力体制も進み、予防
的取組も実践中です。

福岡少年院

九州大学法科大学院との教育連携
(九州大学法科大学院×福岡少年院)

当院では、矯正教育への理解を深めるためエクスター
ンシップ※(以下、ES)として大学院生の職場実習の受け入
れをしています。法科大学院では2月と9月に各2週間のES
期間が設定され、研修先として弁護士事務所や市役所な
どの行政庁とともに、当院も受入機関となっています。ES
では、在院者の生活する姿やその状況を直接見ていただく
ことができ、少年院の活動を知っていただく上で効果的
です。また、参加していただいた方も「貴重な体験ができた」



との感想をいただいております。今後も多くの学生のESへの
参加は有意義なことと考えています。

※エクスターンシップは英語でExternshipと表記。キャリア教育の
1つとして大学生を対象に行われる短期就業体験プログラム。

月形刑務所

月形町薬用作物の産地化事業
～課題解決に取り組む刑務所農業～
(月形町×株式会社月形町振興公社×製薬会社
×月形刑務所)

■ 町の課題と事業のきっかけ

月形町では1次産業生産者減が課題のため、新事業創出に
よる、当所が持つ人的・物的資源(リソース)を活用した『月
形町薬用作物産地化事業』を開始しました。町民と福祉、矯
正施設が支えあう『共生のまちづくり』を目指します。



■ 栽培の大変さに、 刑務所の長所で アプローチ

薬用作物栽培で最も手
間がかかる作業は、収
穫後の洗浄・乾燥・異物
除去作業です。これら
を当所がリソースをフル
活用して事業化。受刑
者は一連の作業を担う
ことで、地域の課題解
決に中心となり取り組
みます。また、町と株
式会社月形町振興公
社、製薬会社及び当
所が協力し『月形町
が薬用作物の産地』
となるよう協業して
います。

奈良少年院

小さな子どもたちとの収穫体験を通じた学び
(奈良市 とも園×奈良少年院)

■ ふれあいの目的

- 園児が思い通りにいかない場面での対応を考える
- 園児の視点に立った言葉づかい
- 園児が興味を持つ〈物〉を想像し準備する
(野菜クイズ、紙芝居など)

このような場面などで相手の心を理解し、情操を育み、地域
社会との連携を更生に生かすこと。



■ 終了後の感想文

「正直、犯罪をした僕たちが子どもたちと触れ合っ
て良いのかと考えることもありましたが…(中略)…
しかし、こんな僕でもこうやって社会に貢献
できたことは今後の社会復帰へ大きな後押し
してくれたのは事実です。」

島根あさひ 社会復帰促進センター

産業観光モニターツアー
(浜田市×島根あさひ社会復帰促進センター)

当センターの資源を活用した地域貢献事業を展開するた
め、島根県立大学及び浜田市と連携協力に関する三者間協
定を締結。平成30年度には、浜田市産業観光モニターツ
アーに協力しました。このツアーは、当センターを『産業観
光施設』として活用し観光ツアーとしての見学、参加者には
訓練生(受刑者)と同じ昼食を提供の2つを柱として実施し

ています。とりわけ、当センター見学後に提供する、訓練生
(受刑者)と同じメニューの昼食が人気です。

■ 参加者の声

「このツアーでなければ入れないセンター内の食事で、彼らと
同じ物を食し、考えることの多い時間でした」などの声があ
り、関心の高さがうかがえたので、今後も地域に施設を周知
する取組を続けます。



沖縄女子学園

3Re-Smile(スリースマイル)プロジェクト
(沖縄県×沖縄女子学園)

沖縄県では、捨て犬・捨て猫の殺処分ゼロを目指し『成犬
譲渡促進事業』を実施。福祉施設などの子どもたちが、捨
て犬に対し家庭犬としてのトレーニングを行い、新たな飼
い主へ譲渡する取組です。当学園では、在院者の改善更生
と対象犬も地域の皆様もみんな笑顔に!と、願って
『3Re-Smile(スリースマイル)プロジェクト』と名付け、こ
の取組に参加しています。

■ プロジェクト内容

約3か月間、専属トレーナーの指導で在院者が対象犬を訓
練する通所型トレーニングと、在院者と対象犬が寮舎で共
同生活するショートステイ型プログラムを展開。同時に、在
院者全員で協力し〈飼い主募集〉や〈捨て犬、捨て猫防止〉
を呼び掛けるポスターの作成などを行います。

